

PDCAサイクルを用いた 認知症マフ普及チームそわんの活動展開




伊豆の国市大仁地域包括支援センター

1

認知症マフ普及チームそわん (そわん=フランス語で“介護する”お世話する“)



認知症カフェ行くべ〜 ボランティア
(以下行くべ〜)

田方農業高校
ライフデザイン科セラピーコース高校生
(以下高校生)

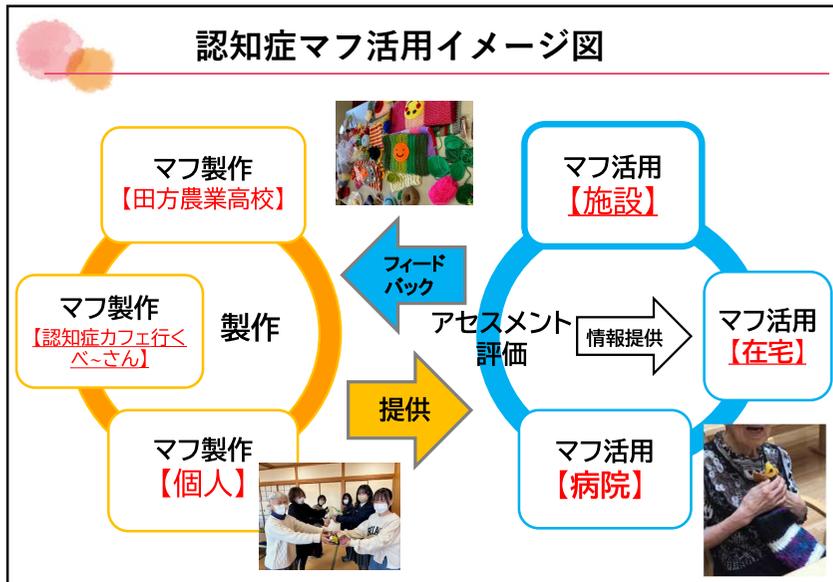
順天堂大学医学部附属静岡病院
老年看護専門看護師 (以下順天堂看護師)

伊豆の国市社会福祉協議会
居宅介護支援事業所 ケアマネジャー
(以下社協居宅)

伊豆の国市大仁地域包括支援センター
事務局とする (以下大仁包括)



2



3

PDCAサイクル

Plan (計画): 目標の設定や計画の策定を行う段階

Do (実行): 計画に基づいて実際の作業やタスクを実行

Check (評価・検証): 実行された結果を検証し、計画とのギャップを確認する段階

Action (改善): Checkで得られたフィードバックをもとに、次のサイクルの改善点を決定



引用元: ロスプリバシジョン マネジメント

4

PDCAサイクルに基づき展開した課題

- ①安全なマフを作ろう
- ②活用する人を増やしたい
- ③材料費、活動費の確保

5

①最初の取り組み課題 安全なマフ作り

当初のマフ・・・

本体の毛糸が目が粗くほつれやすい
アクセサリが取れやすい・木綿糸で傷つけやすい
マスコットのパーツが糊付けて取れやすい

せっかく心を込めて作ったマフが安心して提供できないのでは？



安全なマフ作りをテーマに取り組もう！

6

①最初の取り組みテーマ 安全なマフ作り

Plan (計画) ①

- ・安全性について検討し、チーム内で共有する。
- ・素材やアクセサリの取り付け方法の見直しを行う。
- ・行くべ～から高校生へアクセサリの取り付け方のレクチャーの機会を持つ。



7

①最初の取り組みテーマ 安全なマフ作り

Do (実行) ①

- ・安全なマフについて検討
修正点を情報共有
- ・本体素材の見直し
- ・マスコットのお直し
- ・マスコットの取り付けレクチャー
(行くべ～→高校生)



8

①最初の取り組みテーマ **安全なマフ作り**

Check (評価) ①

素材から見直し、アクセサリーは力を加えても取れにくく、パーツも縫い付けて取れにくいものになった。

本体の網目は細かさも工夫し、指や爪が引っ掛かりにくい物になった。

活用側からのフィードバックを共有し、更に改良を重ね安全な物になった。



9

①最初の取り組みテーマ **安全なマフ作り**

Action (改善) ①

チームそわん以外で製作されているマフについて、お直しが必要であったり、安全性が担保できていない物も多い。

↓

地域で製作する人への**安全なマフ製作の周知が必要**



10

①最初の取り組み課題 **安全なマフ作り**

Plan (計画) ②

令和6年11月
地域でマフ作りに興味のある人に向けたワークショップを企画



【チームそわん】と一緒に安全なマフを作ろう

日時： 令和6年11月16日(土) 10:00～12:00

場所： 富山福祉・高齢センター2階 (前日町302-1)

対象： 認知症マフの製作に興味があり、くさり編みができる方 定員20名(先着順)

持ち物： 糸針(日本語) 7.5号 8号 8号 (黒・白ツバ) 4.5mm ~ 5.5mm いずれか

内容： ①チームそわんの活動報告
認知症対応ケアプラン科セラピーコース
②認知症マフの製作
順天堂大学医学部附属病院看護学 老人看護専門看護 吉原麻子 先生に認知症マフの製作を指導していただきます。
③ワークショップ
マフ本体の編み入部分を中心に1時間程度～(認知症ケアと行くへ～茶ランティヤ)

認知症マフとは？
認知症マフはカラフルにデザインされた機織のニット帽のハンドメイド品です。認知症の人の手を暖かに保ち、顔や耳元という重要な部位にケアが施されています。認知症ケアに効果的で、認知症の人にとって安心感や満足感をもたらします。認知症の人への理解を促進し、私たちの認知症に対する姿勢の転換にもつながります。

【チームそわん】とは？
2023年から、伊豆郡で認知症ケアを推進し広めようという目的で、認知症、認知症ケア、認知症対応、ケアマネジャー、認知症対応センター「チームそわん」を結成し、安全なマフの提供を推進してまいります。
伊豆市チームそわんの活動報告は認知症ケアのワークショップを開催します。

お問い合わせ・お申し込み先
伊豆市富山福祉高齢者センター
TEL 0556-76-7311(平日業務)
FAX 0556-76-7311
E-mail: shiizuka@shizuka-city.jp

11

①最初の取り組み課題 **安全なマフ作り**

Do (実行) ②

ワークショップの開催高校生によるこれまでの活動報告
行くべ～「認知症マフを編む際の8か条」の紹介
順天堂看護師、包括看護師より活用例の紹介
おしゃべりをしながら、本体作りやアクセサリーの取り付け
マフの展示、提供



12

①最初の取り組みテーマ 安全なマフ作り

Check (評価) ②

チームメンバーを含めて12名の参加(住民4名)

「母に作ってみようと思います」
 「みんなでおしゃべりしながら楽しかった」
 「自分の施設でも取り組みたい」



安全なマフ製作を地域に広げる
 活動がスタート



13

②最初の取り組課題 活用する人を増やしたい

安全なマフが完成した
 まだまだどんな活用ができるか分からない



活用する人を増やそう!



14

②取り組課題 活用する人を増やしたい

Plan (計画) ①

- ・活用者へ同意書の作成と説明、利用時のチェックリスト確認、フィードバックを依頼する。
- ・地域に向けた研修会開催、専門職の集まる場でのPR(発表)
- ・高校生による各種イベントでのPR活動
- ・そわんマフ通信の発行と配布



15

②取り組課題 活用する人を増やしたい

Do (実行) ①

- ・令和4年7月「伊豆の国市で認知症マフを広げよう!」
 ハイブリッド開催 → 70名参加
- ・田方農業高校による
 各種イベントでのPR活動



16

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Do (実行) ①

- 各種イベントでのPR展示や発表
 - ぬくもりの里職員会議
 - 特養連絡協議会主催の介護の日
 - 認知症キャラバンメイト交流会
 - 大仁民生委員協議会
 - 認知症映画上映会
 - アピタ認知症月間イベント など
- 「そわん通信」の発行と配布



17

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Check (評価) ①

PR活動により関心を持ってくれる人は多く、希望者には提供した。

提供数: チーム全体は数十件

大仁包括が関わった件数 約20件

内5件が継続利用中 ※フィードバックがない、逝去された方もいる

継続に至ったケース:

穏やかに過ごしながらも、どこか手が落ちないという方

継続できなかったケース:

「最初は興味を持ってくれたけど、すぐに関心がなくなった」
「投げちゃってそれっきり」等の声も・・・

18

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Check (評価) ①

活用者が増えなかった原因は?



1. 安全に利用してもらうために、同意書の作成や活用フロー、チェックリストなど作成・・・活用のハードルを上げてしまった



Action (改善) ①

同意書は説明のみ フロー、チェックリストは廃止
代わりに十分な説明と活用状況の共有を依頼
可能な範囲で訪問し、聞き取りを行う

19

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Check (評価) ①

活用者が増えなかった原因は?

2. 当事者に合った渡し方が出来ていなかった
どんな方に向いているのか
実際の効果が分かりにくい



Action (改善) ①

活用の具体的な方法についての周知が必要



20

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Plan (計画) ②

- ・同意書やフローチェックリストといった現場の負担になる作業を廃止
- ・活用方法の具体的説明、特に導入部分の十分な説明
フォローアップ訪問の実施
- ・活用報告会の開催企画

21

①最初の取り組み課題 活用する人を増やしたい

Do (実行) ②

- ・マフを気軽に活用できるよう、イベント等で直接説明し提供
- ・利用者からのフィードバックをもらう
もしくはフォローアップ訪問を実施
- ・令和7年1月に活用報告会をオンライン開催→53名参加

22

Aさま

女性 85歳 要介護4 自立度B1 認知症自立度Ⅲα 特養入所中
認知症、骨粗鬆症、高血圧、高脂血症

骨粗鬆症のため、骨折しやすい。
居室のベッドで横になって過ごす時間が長くなった。
排泄介助や移乗の時に手が落ち着かないことが多かった。

コミュニケーションツールとして活用したいと
ご家族より希望した。
ご家族がスタッフと一緒に導入。



23

活用ケース



24

お世話する時にも使用



25

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Check (評価) ②

- ・現場の負担を軽減し、気軽に活用できる状況を作ることができた
- ・報告会后、問い合わせが4件あり内1件マフを提供

しかし

- ・その後のフィードバック方法が決まっておらずフィードバック用紙の作成を検討中
- ・フォローアップを行うにあたり、チームメンバーの負担感も大きくならない工夫も必要



26

③取り組み課題 材料費 活動費の確保

材料は自分持ち・・・
活動資金はゼロ・・・

活動の継続が見込めない



マフの活動について知ってもらい、寄付を募ろう!



27

②取り組み課題 活用する人を増やしたい

Plan (計画) ①

- ・材料の寄付を募る
- ・高校生による各イベントなどでのPR活動
- ・チーム内での活動費についての意見交換



28

③取り組み課題 材料費 活動費の確保

Do (実行)

- ・高校生中心にPR寄付募集
- ・毛糸いれてばこの製作・設置
- ・寄付の集約先は
社会福祉協議会・大仁包括



ご寄付頂いた皆様、誠にありがとうございました。

29

③取り組み課題 材料費 活動費の確保

Do (実行)

- ・負担感なく無理なく活動しよう!
ボランティアの在り方や無理をしない活動を再検討
- ・受賞や助成金活動支援金
いくべ〜 ソロプチミスト伊豆天城から
社会ボランティア賞受賞
- ・高校生 せせらぎ三島ロータリークラブ
三島信用金庫ボランティア助成金
函南町ライズクラブ
- ・事務局も事務費の確保



30

③取り組み課題 材料費 活動費の確保

Check (評価)

- ・活動をPRすることで、材料の調達や活動費を確保することに繋がった。
- ・PRだけではなく、助成金補助金を受けるに値する活動の継続が必要である。
- ・次年度に向けて、負担感のない活動にしていくための話し合い



31

③取り組み課題 材料費 活動費の確保

Action (改善)

- ・その他学会助成金の応募中
- ・負担のない範囲で楽しく活動できることを皆で心掛けている



32

取組による成果

- ・チームそわんとして、PDCAに添って試行錯誤しながら安全なマフ製作することが達成できた。
- ・取り組みにより、「活用してみたい」と興味関心を持ってもらうというスタート地点に立つことができた。
- ・予算面の課題について、材料寄付の仕組みづくりや補助金の確保など、経済的負担が少なく、活動の継続に繋げることができた。

33

取組による成果

- ・チームそわんの活動を通して、多くの人や機関との交流をすることができた。
- ・マフを通して、日頃の業務での連携のしやすさが生まれたことは、二次的な効果であった。



34

今後の課題

- ・地域の作り手への安全性のアプローチは継続が必要である。
- ・活用のしやすさやフィードバック方法の検討を重ねて、必要な人の手にマフが届くような仕組みを作っていくたい。
- ・地域活動において、PDCAサイクルを用いたことで、チームとしての活動をブラッシュアップできた。今後の地域活動の転換にも活用できる。

35

参考・引用文献

- 1) ハドラーホームページ 会議を起点としたマネジメントツールPDCAの定義
- 2) 認知症マフ活用ケアガイドver.2 鈴木みずえ 浜松医科大学臨床看護学講座
- 3) Twiddle Muff (認知症マフ) 活用ケアガイド ケース&グループ編 浜松医科大学臨床看護学講座
- 4) Twiddle Muff (認知症マフ) 在宅活用ケアガイド 浜松医科大学臨床看護学講座 順天堂大学医学部附属静岡病院 伊豆の国市大仁地域包括支援センター 他
- 5) 認知症の人とケアする人の優しをつなぐケア Twiddle Muffを用いた身体拘束最小化の取り組み 鈴木みずえ、富樫千代美 日本老年医学会雑誌60巻4号、2024. 10
- 6) PDCAサイクルを踏まえた保健事業の評価 国立保健医療科学院生涯健康研究部 横山徹彌
- 7) 市民センターに配置された保健師による地域診断に基づくPDCAサイクルの実践モデル開発 山口県宇部市 2018. 3

36

ご清聴ありがとうございました

